

〈連載②〉



## 小型クルーズ客船

### 「おせあにつくぐれいす」



大阪府立大学船舶工学科助教授

池田 良穂

**この4月**、日本鋼管津製作所で1隻のクルーズ客船が完成した。船名は「おせあにつくぐれいす」。昭和海運が建造したもので、総トン数は5,000トンとこぶりだが、すばらしいハードとソフトを兼ね備えた本格的クルーズ客船である。従来の日本のクルーズ客船はいずれも研修船との兼用船であったが、この船は日本では初めてのクルーズ専用船である点で日本のクルーズ客船史上のエポック・メイカーと言える。しかも、かなり高グレードのサービスを売り物にしている点も注目に値する。また、資金調達の意味もあって、一部会員制を採用している点も、今後日本でクルーズ事業に進出する各社が注目している点ではなかろうか。

**世界的に**みると、クルーズ客船は大型化が進み、特にアメリカ市場では、総トン数6万トン以上、旅客定員が2,000名をこえるものが主流になりつつあるが、一方で小型のハイグレード客船も続々と登場している。例えば、キュナードが運航するシーゴッデス姉妹はクルーズ客船のランキング表でも5つ星のトップ・ランキングに選ばれており、この代表であろう。「おせあにつくぐれいす」もこのシーゴッデスを1つのモデルとして計画されたもので、比較的富裕な層をターゲッ

トとしての運航が計画されている。今まで、日本のクルーズ客船は、このクルーズ客船のランキング表には登場したことがないが、「おせあにつくぐれいす」は十分に登場する資格をもち、どの程度の星が与えられるか今から楽しみなどころである。

**同船を**建造中の3月下旬に日本鋼管で、また竣工後神戸港でつぶさに見る機会に恵まれた。ハード面の印象としては、コンパクトながらよく配慮の行き届いた設計がされている。ヨットを意識しているため、外形にも内装にもいわゆる昔の客船風の重厚さはないが、明るいインテリアは軽快で、楽しい船旅ができそうである。クルーズ客船にあっては、ある程度のハードがあれば、乗客をハッピーにできるかどうかはほとんどすべてソフトにかかっている、というのが筆者の持論である。ソフト面に関して、神戸港でのレセプションを見る限り、かなりのものが期待できそうである。北米の有名客船での乗務経験のあるサービス要員を十名弱乗船させており、かれらの長い経験に基づく接客態度には安心感があった。日本人のサービス要員も一流ホテルからの派遣とのことで感じよかった。外国人と日本人のもつサービス精神の長所をお互いに学び合えば、世界のクルーズ市

場でも通用する同船独特のすばらしい雰囲気を作りだされるように思う。大いに期待される場所である。

モーターボート、ウィンドサーフィン、スキューバダイビングなどのマリレジャー関連施設が整っているのも同船の大きな特色であろう。これも、大型クルーズにはない、ヨットタイプの小型船ならではのものであろう。

**ちなみに、** 同船の乗船費用は1日あたり6万円。世界的なクルーズ客船の標準的料金レベルと比べると、かなり高いランクにある。ただし、

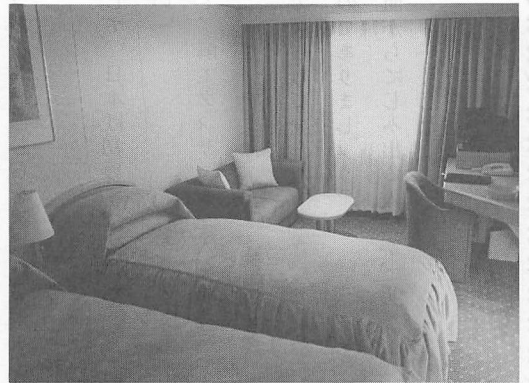
一流のホテルにとまり、食事をとり、ショーやダンスを楽しみ、かつ移動していると考えれば、この料金も決してべらぼうに高いものとは思われない。しかも、120名の旅客に対し70名強もの乗組員がつきっきりでサービスしているという質的な面を考えると、むしろお買い得の旅行とも言える。駆け足の海外旅行にすっかりあきってしまったら、こんな小型豪華クルーズ客船で御夫婦で1週間ほどののんびりとした船旅を楽しむのも一興ではなからうか。働き人間にとってもこうした自由な時間は必要で、広い大海原をながめていると、斬新なアイデアや仕事への活力も湧いて来るのである。



おせあにつく ぐれいす



サロン



キャビン